

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		ことばと発達をサポートルーム マーブル小竹		公表日		令和8年 4月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育の為、同時帯に利用者が部屋数以上にならないようにしている。予約の取り方や時間枠を工夫している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		指定基準を満たし、適切に職員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		事業所内は全体的に段差はないが、玄関の上がり框が高いので椅子を設置している。廊下に手すりを設け、一部バリアフリー化している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		事業所内は全体的に段差はないが、玄関の上がり框が高いので椅子を設置している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別訓練を行っているので、部屋の確保はできている。	必要な場合は、個室に誘導できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務を見直す機会を定期的に設け、スタッフ全員で業務改善に取り組んでいる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートを実施し、スタッフ全員で改善点等の討議を行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に行うミーティングで業務改善を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				第三者による外部評価は行っていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に事業所内研修を行っている。また、外部研修への参加も積極的に行っている。		
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		個別支援会議を確実にし、個別支援計画を公開している。	新入社員向けにわかりやすい研修を行い、共有していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		事業所見学时に十分な聞き取りを行い、その後のアセスメントをもとに個別支援計画を作成している。利用開始後も定期的な聞き取りを行ったり再評価をすることで、ニーズに即した見直しを行なっている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援会議を行い、職員が把握できるようにしている。	他事業所や外部の様子も踏まえた上で支援計画をたてる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		いつでも職員間で閲覧し共有できるようにしている。	計画に沿っているかの確認を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		お子さんに合わせた評価を行っている。	インフォーマルなアセスメントの導入について今後は、必要に応じて取るようにしていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		サービス利用計画をもとに計画を立て、計画書に基づいて支援を行っている。	地域との連携を今後もより密にしていく。	

りな 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフ間で情報を共有し子どもの成長に合わせた課題を検討し、内容の見直しを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		スタッフ間で話し合い目標が同じものであっても少しずつ変化を持てさせてマンネリ化しないように内容の見直しを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育の為、集団活動の機会はほぼなく、組み合わせての計画の作成は行っていない。	今後は、小集団も検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎回課題の準備等をスタッフ間で打ち合わせをしながら準備を行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	○		毎回、スタッフ間で振り返りを行い、次回の訓練の準備に備える。訓練終了後、時間が取れない場合は翌朝にミーティングを行う。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めているか。	○		毎回、訓練記録を取り、スタッフ間で情報共有し、支援の検証・改善に繋がるように努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		相談に応じるなどしてニーズを把握に努め、定期的に見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインに基づき、支援の基本活動を意識して支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		立案の際に自己選択できる課題を計画したり、スケジュールで、必要に応じて子供と話をし、変更・追加等を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所と密に連携し、担当者会議には子どもの担当職員が参画する。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		個に応じた必要機関との情報共有をおこなっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通して情報共有を行っている。また、必要に応じて相談支援専門員を通して学校との担当者会議を開催している。送迎は行っていない。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要な情報の取得や提供に努め相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			今現在までは、移行するケースはないが、保護者の同意を得た上で円滑に情報提供や引き継ぎができるように努めたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			必要に応じて検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		個別療育という事とほとんどのおさんが学校と並行して通所しているということもあり、特別な交流や共同での活動の機会はない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会には、参加していないが保健師など地域との連携を密に行うようにしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回訓練終了後、保護者に訓練内容の説明や子ども状況を共有している。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		プログラムを組んでの支援は行っていないが、情報共有する中で保護者の悩みや課題に寄り添うようにしている。	保護者向けの研修会の企画について検討していく。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書の中で詳細を説明している。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		見学时に十分な聞き取りを行い、その語のアセスメントを元に支援プログラムに沿って個別支援計画を作成している。また、作成後には保護者に説明、確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		ガイドラインに基づき、児童発達支援管理責任者が専門職と協議しながら計画した内容を説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		会報は発行していないが、SNS等で発信している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会の開催は行っていないが、定期的に勉強会を行い、勉強会后、懇談会を行っている。	今後機会を設けるように検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談については、随時受け付けており、その都度迅速かつ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	会報は発行していないが、SNS等で発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報取り扱い同意書の説明を行い、確認・署名を頂いている。個人情報は鍵付きキャビネットに保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		スケジュールや絵カードを用いたコミュニケーションツールの活用を行っている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		大勢を招待する行事の開催は難しいが、随時見学の受入はしている。また、事業所主催の勉強会や3か月に1度の無料相談会を開催している。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルはいつでも閲覧できるように事業所内に掲示している。防災訓練は、個別療育の為スタッフのみで年2回実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災訓練は、個別療育の為職員のみで年2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		見学に来られた際、相談票に記入いただいている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			個別療育の為、食事の提供なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		個別療育の為職員のみで年2回実施している。	日頃から安全の意識を職員の共通認識として高めていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		親子通所で個室で行っており、それぞれの教室に避難経路等の提示をしている。	引き続き提示を行い、変更等ある際には、迅速にお伝えするように対応していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		該当する事案が発生した時、直ちにヒヤリハットを作成し職員間で共有、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		入社時と、年に1回研修の機会を設けている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明をし「身体拘束に関する同意書」に保護者から署名を頂いている。	